

先進医療開発コアセンター



下川 宏明

■コアセンター長 下川 宏明
 ■副コアセンター長 後藤 昌史
 ■研究者数 計28名：教授（14名）、准教授（4名）、講師（2名）、助教（7名）、他（1名）

先進医療の開発は、大学としても最も重要な使命の一つです。本コアセンターは4つのプロジェクト（医療機器開発・細胞治療・遺伝子医療開発・レギュラトリーサイエンス）からなりませんが、実用化をめざしたオンリーワン・ナンバーワンのシーズ開発をめざすことが最大の特徴です。また、レギュラトリーサイエンス部門では、大学病院の臨床研究推進センターとの連携により、シ

先進医療の早期実用化をめざして

ズ開発の早期の段階から出口を見据えた研究推進を行っていく点も大きな特色となっています。本コアセンターの構築により、従来の枠組みにとらわれない目的志向の組織構築を進め、創生応用医学研究センターが有する多くの優良な基礎シーズの中から少しでも多くのシーズを臨床研究段階へとつないで、先進医療の実用化までの期間を大幅に短縮していきたいと考えています。

先進循環器研究コアセンター



下川 宏明

■コアセンター長 下川 宏明
 ■副コアセンター長 齋木 佳克
 ■研究者数 計41名：教授（16名）、准教授（8名）、講師（6名）、助教（11名）

世界に先駆けて超高齢社会に突入したわが国では、循環器疾患の重要性がますます高まってきています。本年新たに創設した本コアセンターは、このような社会的背景を受け、東北大学における循環器領域の研究者が結集して集学的に先進的研究を行うことを目的としています。具体的には、7つのプロジェクト（臨床疫学研究・大血管治療開発・循環作動薬開発・肺高血圧研究・動脈硬化

循環器領域の先進的研究をめざして

研究・重症心不全研究・先端医療開発)を設置し、先進的研究を推進していきます。さらに、本コアセンターから生まれたシーズを、東北大学病院の臨床研究推進センターと開発早期から連携することにより、実用化につなげていきたいと思っています。本コアセンターの構築により、従来の枠組みにとらわれない目的志向の組織構築を進め、循環器領域の医学・医療の発展に貢献していきたいと考えています。

内外から注目

東北大学病院 臨床研究推進センター長 下川 宏明

大学等の臨床研究機関においては、優れた研究成果を、基礎研究・前臨床研究に続いて臨床研究を通じて実用化し社会に還元していくことは重要な使命です。しかし、わが国では世界的な基礎研究の成果が多いにも関わらず、臨床研究の体制整備が遅れたことから、欧米での臨床研究が先行し、結果的に日本の患者がその恩恵を受けることが欧米より遅れ、また、長年にわたり医薬品も医療機器も大幅な輸入超過に陥っている現状があり、国際競争力を有する質の高い臨床研究推進体制の整備が国家的



な急務となっています。こうした社会的背景を受けて、わが国の医学研究・医療をリードする大学病院でも臨床研究支援体制の充実が求められています。東北大学では、平成15・19年度に先進医学研究機構(TUBERO)を、次いで平成19・23年度には未来医学治療開発センター(INVIVO)を設置し、工学を中心とした開発研究を行い、平成20年度からわが国初の医学研究科の大学院設置に至りました。また、平成24年度から、INVIVOと東北大学病院治療センターが発展的に統合することにより、「東北大学病院臨床研究推進センター(CRIETTO)」が設置されました。

臨床研究推進の環境整備 東北地方全体を支援

現在、東北大学では臨床研究を推進する非常に良い環境ができてつあります。

第1に、東北大学病院が平成25年度から5年間、厚労省から臨床研究中核病院事業に選定されました。この事業は、東北大学病院が東北地方の中核となって臨床研究を推進するものです。特に、国からは、東北大学の伝統を生かした医療機器の開発と東北地方の臨床研究のネットワーク形成を求められています。

第2に、東北大学では、基礎的シーズの開発を目指す医学系研究科の創生応用医学研究センター(AART)との連携ができています。

第3に、ライフサイエンスに関連する全ての15部署が参加する全学組織として「メディカルサイエンス実用化推進委員会」が組織され、臨床開発研究を支援する体制ができています。

第4に、文科省関連の「橋渡し研究支援拠点ネットワーク事業」と「知と医療機器創生宮城県エリ

ア」事業が実施されています。臨床研究推進センターは、これらの臨床研究を束ねる重要な役割を果たすだけでなく、広く、東北地方全体の臨床研究支援体制作りを目指しています。実際に、東北6県の大学病院が核になった「東北トランスレーショナルリサーチ拠点形成ネットワーク(TTN)」が形成され、本センターはこのTTNを牽引していきます。

したがって、本センターの果たすミッションは大きく、その事業内容は、非常に多岐に及びます。また、センターの職員数も既に100名を超え、東北大学だけではなく東北地方全体の臨床研究の中核となることが期待されています。今後、AARTとの連携を推進し、国内外に向けて、医療機器や医薬品の主な分野はもろろんのこの分野を対象にした開発研究結果を発信していきます。また、臨床研究を担う人材育成にも努めたいと思います。